

第7回島田市都市計画マスタープラン等 まちづくり市民会議 議事要旨

◆日時：平成31年1月22日（火）18：45～21：00

◆場所：おおるり3階視聴覚室

◆出席者：

○まちづくり市民会議委員（15人）

区分	氏名	職業等（所属）	備考
公募	権田 真知子	自営業（ヨガインストラクター）	
	荒井 浩介	会社代表（(株)荒井建築計画事務所）	
	戸塚 康之	会社役員（(有)アスカエンジニアリング）	
団体推薦	佐久間 章次	島田商工会議所	会長
	木村 恭輔	島田青年会議所	欠席
	鶴川 忠章	島田市社会福祉協議会	
	新聞 康博	島田市自治会連合会	
	太田 拓男	島田市自治会連合会	欠席
その他	北川 有香	男女協働参画啓発推進委員	
	田代 紗莉依	静岡県立大学 薬学部	
	鈴木 悠	静岡福祉大学 社会福祉学部	
市職員	堀崎 大二郎	地域生活部 協働推進課	
	北川 未奈子	行政経営部 人事課	
	安達 佑美	教育部 社会教育課	
	杉浦 元紀	支所 川根地域総合課	欠席

■第7回まちづくり市民会議 議事要旨

<5つの「テーマ別方針」について>

都市の暮らしやすさ

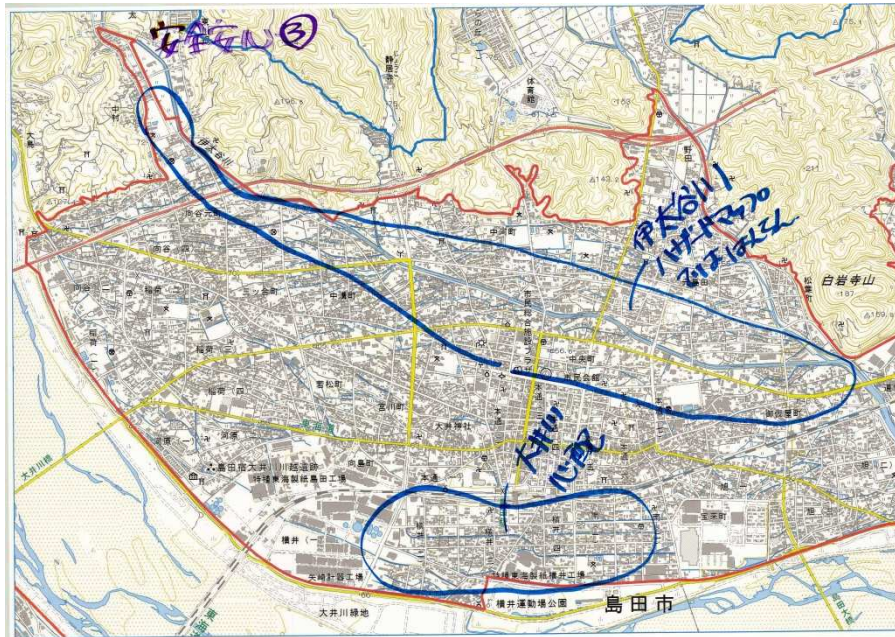
都市の暮らしやすさ					
■第7回市民会議のワークシート ※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。					
視点 (タイトル)	誰が (ターゲット)	どこで (場所、エリア)	何を (メニュー等)	どのように (方法等)	その他 (特記)
視点1 多様な コミュニティを 育む拠点整備	市民が 小学生が シルバー世代が	島田から市役所前 コミュニティセンター 空き家を活用し 喫茶店	セミナー・講習会 子供食堂 情報収集 発信する	趣味のサークル 食事をする ニーズに対応し 人とのマッチング	
視点2 都市機能 (医療)	市民が	遠方地区 交通弱者 拠点の公民館	訪問医療 医師を増や 予防医療	ICTを活用し 奨学金を市が補助 分院を作る 食育・セミナー ヨガ・体操	
視点3 多様な コミュニティ	子育て 世代が	公園 避難地	子供や親が 安心して遊ぶ	防犯カメラ 設置 自動制御	安全安心 ミチカ 魅力 環境 全揃

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

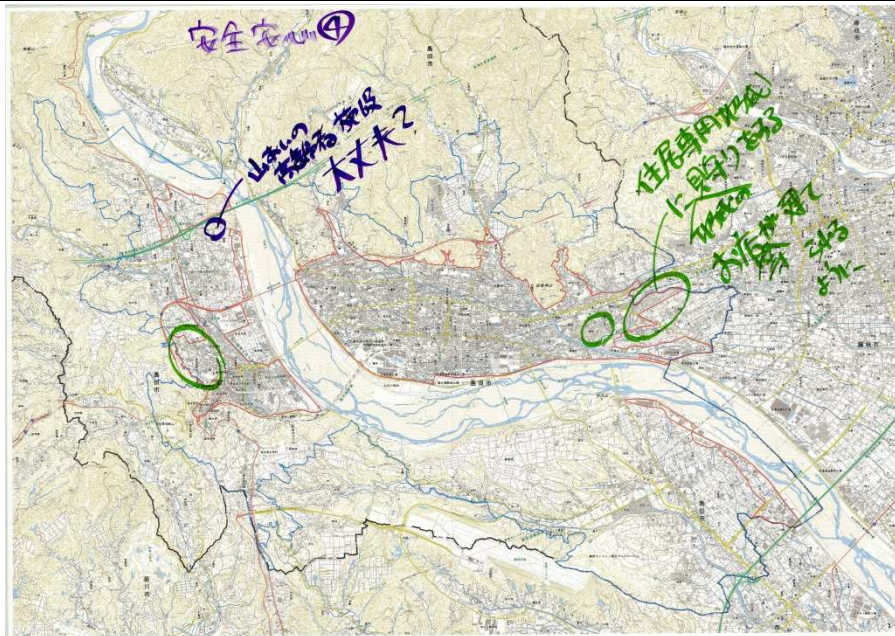
グループ発表	<p><発表概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多様なコミュニティを育む拠点整備」の視点では、市民や小学生、シルバー世代が集えるコミュニティセンターを整備することで、情報の収集・発信の拠点到できれば良いという意見が出た。具体的には、島田駅から市役所前までの空き家等をリノベーションし、子供食堂やシルバー世代の居場所づくりを考えた。子供食堂では、シルバー世代に運営等を任せることで活力の創出にも繋がると思う。シルバー世代の居場所としては、独居老人になると人と関わる機会が無くなってしまうため、喫茶店などを自主的に運営してもらい、情報収集・発信の場として活用してもらうことで、趣味のサークルなど多様なニーズに対応した、人と人とのマッチングができればと思う。 ・「都市機能」の視点では、商業機能や福祉機能など、様々な機能がある中で医療に特化して意見交換を行った。ターゲットとしては市民全体だが、特に中山間地などの中心市街地から遠くに住む人、交通弱者、高齢者などを対象に、家庭で医療が受けられるような取組みが出来ればよいという意見が出た。具体的には、ICTを活用して自宅等で医療が受けられる訪問医療が推進されれば良いと考えた。また、今後、島田市に医師を増やしていくためには、どうすればよいか考えた時に、奨学金制度などにより行政が支援・補助することで市民病院などに医師を多く呼び込み、ある程度の医師の数が確保できたら、最終的にはコミュニティセンターなどの地域の拠点到分院を整備し、そこを拠点到医療が受けられるようになれば良いと考えた。さらに予防医療などの考え方が広まってきたため、公民館などの地域の拠点到食育やセミナー、ヨガ、体操などの講座や教室を開講し、病気にかからないための予防を施策として取り組む必要があるのではないかという意見も出た。 ・「多様なコミュニティ」の視点では、最近子どもを外で自由に遊ばせることがなくなってきているため、子育て世代が安心して子供を遊ばせられるように人気の公園などには防犯カメラを多く設置してはどうかという意見が出た。防犯カメラが多く設置されていれば、子供が少し遠くに行ってしまうと、保護者も安心するし、防犯カメラの画像をスマホ等で見られれば、なお良いと思った。また、島田市には防犯カメラがたくさんあることを周知することで、犯罪抑制にも繋がり、市のPRにもなると思う。それが子育てしやすいという魅力になり、都市の暮らしやすさに繋がると思う。
--------	--

都市の安全安心

意見交換の結果(3)



意見交換の結果(4)



都市の安全安心

<発表概要>

- ・「防災意識を高める取組み」の視点では、これまで大きな災害がなかったため、市民の防災に対する意識が低いという状況を踏まえ、若い世代から高齢者までの多様な世代に対して、特に大井川沿いの地域において、色々な手段で情報が得られる仕組みを整備することが良いのではないかという意見が出た。若い人には新聞やテレビ、ラジオなどの媒体よりも、スマホで見られるツイッターなどのSNS、防災メールなどを活用した方が普段から防災意識が高まり、有事の際にも有効に活用できるのではないかと考えた。一方、高齢者はSNSよりもテレビや新聞などの紙媒体の活用がメインになるが、何か一つに絞るのではなく、色々な手段で情報が得られるようにすることが大切だと思う。
- ・(委員談) 私は島田市現地避難地班として、震度4以上の地震が発生した場合に、避難所となる小学校にて対応する担当をしている。先日、島田第五小学校で実施した避難訓練では、参加した方々と一緒に避難所運営ゲームというものを行った。これは各グループに避難所に来た方の様子や避難所で必要な対応などが書かれたカードが配られ、その内容に対して、どのように対応すればよいか考えてもらうゲームになっている。市民の方々と実際に必要な対応について共有することで、防災意識が高まる良い機会になった。ぜひこのような取組みを自治体規模で実践すれば、市民全体の防災意識の向上に繋がると思う。また、防災訓練は参加者の都合上、休日に行うことが大半であるが、平日に行っても良いのではという意見も出ている。
- ・「地域の見守り強化」の視点では、昼間のまち中に人がいなくなるという状況があることから、住宅しか建てられないような住居専用地域には規制を緩和して店舗や塾などを立地できるようにすることで、平日でもまちに人がいて見守りできるようにすることが大切ではないかという意見が出た。
- ・「エネルギーの地産地消」の視点では、災害時にはエネルギーが不足するといったリスクを分散させるため、太陽光を含めた取組みが出来れば良いという意見が出た。
- ・「空き家対策」の視点では、年々増加する空き家をどうするか考えた時に、シェアハウスとして活用したり、貸し出したりするなど出来れば良いという意見が出た。また、空き家をリフォームして住みたい人がいるか、建て直したい人がいるかなどの状況を把握することも重要であり、実際に建て直すにしても建てる人が費用を負担しなければならぬため、建て替えやリフォームなどの需要に対する補助があれば良いのではないかという意見が出た。もし、シェアハウスということであれば、まちなかならば若い人や単身者が利用する可能性もあり、賃貸としての利活用を想定するならば、低所得者が借りやすくなれば、少しは空き家も減るのではないかという意見も出ている。

都市の活力

意見交換の結果

都市の活力

■第7回市民会議のワークシート ※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

視点 (タイトル)	誰が (ターゲット)	どこで (場所、エリア)	何を (メニュー等)	どのように (方法等)	その他 (特記)
視点1 企業誘致	水を 使う 企業	大井川 流域	企業訪問 伊豆社 とPR	食品 製菓	
視点2 産業の 付加価値 競争力の 向上	若者	空き地 スペース 低利用地	スキル 養成	養成 学校を つくる	指導者必要
視点3 起業支援 雇用創出	働き手 自分で選択 したい人 ニセモノ	空き家 空き店舗	ICT関連 ワーク スキルを 学ぶ	体験の場 インターンシップ	WiFi整備 指導者必要 コーディネーター ディレクター

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

<発表概要>

- ・「企業誘致」の視点では、大井川流域に水を使う企業を誘致したらどうかと意見が出た。企業誘致にあたっては、企業訪問等で大井川のPRだけではなく、島田の住みやすさなども合わせてPRすることで、水を扱う食品会社や製薬会社などに来てもらえればよいのではないかと考えた。
- ・「産業の付加価値化・競争力の向上」の視点では、都市の活力を向上させるためには、若者の数を増やすことが重要であるため、ターゲットを若者に絞り、中心市街地の空き家や空き店舗、空きスペースに加え、低・未利用地などに養成学校を整備したらどうかという意見が出た。この養成学校では、島田でしか学ぶことができないスキルを養成出来れば良いと考え、近い将来様々な仕事がロボット化、AI化されることを見越して、ロボットの操縦・運転などの特別なスキルを島田で教えることができれば、興味を持つ若者が集まってくるのではないかと考えた。
- ・「起業支援・雇用創出」の視点では、企業を誘致して働く人を増やすことも大切だが、島田にいながら東京などの大都市でも仕事ができる環境をつくることも大切だという意見が出ている。既にICTを活用したテレワークやクラウドソーシングでの仕事に取り組んでいる方も実際にいるため、ターゲットとしては、働き方を自分で選択したい人、起業したい人、今は東京で仕事をしているが、家庭の都合など色々な事情を持つため、島田市内で仕事をしたい人を対象に、空き家や空き店舗などをリノベーションし、ネット環境が整ったシェアオフィスやワーキングスペース、サテライトオフィスを整備してはどうかと考えた。具体的には、小学生や中高生向けのプログラミング教室などをサテライトオフィスなどで体験したり、色々な職種に対して、どのようなスキルがあればどんな仕事ができるのかを体験できる場として活用するのはどうかと考えた。そのためにはセキュリティがしっかりしたネット環境を整備する必要があるが、以前とは違いセキュリティが強化されたWi-fi環境を整備することができるようになってきている。また、単にサテライトオフィスのような空間を整備するだけでなく、インターネットを利用した仕事のノウハウを教えてくれる指導者を呼んで教えてもらうことができれば良いと考えた。実際にそのような場所があれば、指導者のみならず、オフィスを管理する仕事や人と仕事を繋ぐコーディネーターの仕事も出てくる為、雇用の創出にも繋がると思う。

グループ発表

都市の魅力

■第7回市民会議のワークシート ※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

都市の魅力

視点 (タイトル)	誰が (ターゲット)	どこで (場所、エリア)	何を (メニュー等)	どのように (方法等)	その他 (特記)
視点1 にぎわい広場 (駅前のシンボリック)	その昔の時代 子育て世代 若い世代が活躍	駅前のサンカク公園 と駐車場を合体! 広い広場をつくる。	島田ラーメンの集まる。 ・つねにイベントが開催されている。 ・隣接の合わせ広場を	駅前～帯通りの間に 良い所をいくつか確保して面にする ・駐車場を一端に集める。 ・カラフルな建物を増やす。 ・その蓋の所にプロフェツを依頼する。	
視点2 空き店舗の利活用	若者・アーティスト 何かを発信したい人 高校生や大学生	シャッター通り 裏通り 空き店舗	島田にしかない個性ある店 カフェ・出会い場所 団体の活動拠点 24時間貸しスペース	とこでも新しいものを取り入れる。 大学のフィールドワークの場として。 成果報酬型の賃貸 2名作店舗をつくる。(昼は子育て、夜は若者向け) 物件のオーナーと交渉する	
視点3 市役所周辺			市民職員も使えるサービス	市川市役所 市川市役所 市川市役所 市川市役所	駅→経路 市川市役所 市川市役所 市川市役所 市川市役所
視点4 インバウンド		川越エリア 川根 ほうらんげし。	駅前に外国人の ホテル	川越エリアに泊まる場所をつくる。 お互いが異文化な流 を通じて楽しむ。	○インスタ、YouTubeの活用 ○レンタサイクルを活用して観光地化 ○川越エリアに体験型アクティビティを設けること ○地元を体験できるお店(体験用車)

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

意見交換の結果

<発表概要>

- ・「にぎわい広場」の視点では、島田駅前が寂しい空間となっており、人が交流し、滞留する場所がないため、子育て世代や若い世代が繋がるように、駅前にシンボリックな公園が出来ればよいという意見が出た。具体的には、駅前の三角公園とその隣の大きな駐車場を合わせた場所に広場を整備し、常にイベントが開催されて賑わっていたり、待合せとして使ってもらえたりすると良いと考えた。にぎわいの広がり考えた時には、駅前の公園とおび通りの間で少しずつでも空間を増やしていくことが大切だと思う。今の駅前は良い場所に限って駐車場となっているため、駐車場は端に寄せれば、もっと中身の濃い駅前空間となると思う。また、カラフルな建物を建てれば、駅前の見栄えも良くなるという意見も出ており、魅力向上には色々な方向性があるかと思うが、最終的にはお金をかけてでも、専門家に依頼してプロデュースしてもらおうのが良いと思う。
- ・「空き店舗の利活用」の視点では、若者やアーティスト、何かを発信したい人、高校生や大学生に向けて、シャッター通りになっている商店街や裏通りの空き店舗などで、島田にしかない個性的な店やカフェなどの出会える場所、団体の活動拠点、24時間利用できる貸しスペースなどがあればよいという意見が出た。それらを実現するためには、物件のオーナーとの交渉が必要になるが、案としては、月間売上の5%を支払うなどの成果報酬の一部を支払うことができれば、借りる側のハードルも下がるのではないかなと思う。また、島田には大学はないが、市外にある大学のフィールドワークの場としてレンタルスペースの利用を促すことで、大学がない島田でも学生が賑わうのではないかなという意見も出た。これまでにない新しい取組みを進めることが必要ではないかなと思う。
- ・「市役所周辺」の視点では、現在検討が進んでいる庁舎について、掛川市役所のような庁舎が良いのではないかなという意見が出た。
- ・「インバウンド」の視点では、蓬莱橋や川越遺跡などの価値の高い資源があるが、1日遊べるわけではなく、観光資源の貴重さをPR出来てないため工夫が必要である。インバウンド向けとしては、駅前に外国人を対象としたホテルを整備したり、川越エリアなどの観光地には宿泊施設を整備してはどうかという意見が出た。さらに、宿泊施設だけでなく、観光エリアに体験型アクティビティを設けることで、外国人に日本の文化に触れてもらう機会をつくるのも重要だと思う。

グループ発表(1)

	都市の魅力
グループ発表(2)	<p><発表概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 蓬萊橋や川越遺跡周辺には、観光資源そのものしかなく、まわりに活気がない。せっかく自然を活かした観光資源を持っているため、地元を体感できるレストランや商業施設などがあれば、よりにぎわうと思う。また、距離がある観光地を一日楽しむ方法として、まずは観光地同士を繋がなくてはいけないため、レンタサイクルなどを利用して、観光地めぐりをするようなルートを提案・発信する必要があるのではないかという意見が出た。情報発信のツールとしては、インバウンドを踏まえた、インスタグラムや Youtube などのウェブ媒体を利用しながら、島田の魅力を発信できれば良いと考えた。

都市の環境

意見交換の結果 (1)

■第7回市民会議のワークシート ※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

環境 ①

視点 (タイトル)	誰が (ターゲット)	どこで (場所、エリア)	何を (メニュー等)	どのように (方法等)	その他 (特記)
視点1 歴史と文化の 景観	観光客 + 島田の若者 (子ども)	川 本通り + 川越 全谷	街道文化を 発信する ↓ 今ある文化景の 維持・振興	民間の力 補助	20年後には 島田市内 全ての人から 参加
視点2 20年後の 小水力発電 の 推進	民間企業 + 市(補助)	地田上 市内の用水路 (伊太谷川 内屋川)	小水力発電 の整備	20年後の技術が 民間が実在 + 市の補助	常時水あり + 電源確保 + 遊憩場所
視点3					

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

意見交換の結果 (2)

■第7回市民会議のワークシート ※各ラウンドで、テーマ別方針の中から「視点」を絞って意見交換してください。

環境 ②

視点 (タイトル)	誰が (ターゲット)	どこで (場所、エリア)	何を (メニュー等)	どのように (方法等)	その他 (特記)
視点1 エネルギー テレワーク 人口減少 市の整備→民間の参入	各家 住民 地域住民	各住戸 各町内 地域	ワークテン ジョブ 地域連携 (水)	整備しやす しくおこなう	独立型 合資型 TPO
視点2 景観の維持 (景観)	地元行政	身近な景観 (D&C)	生活と親	→ 景観を 住民が する	
視点3 大井川の 川の整備	時間帯 A-ゲート AM 前世代 PM 観光	大井川 公園 手取川	働く人が 楽しめる おもしろい	民間 の力	

※具体的な場所は、地図上に位置を示してください。

都市の環境

意見交換の結果(3)



<発表概要>

- ・「歴史と文化の景観」の視点で、今の若者は大井川や東海道の歴史を知らない人も多いため、この歴史を若い世代だけではなく広く伝えるためにも、島田の若者や観光客に向けて、大井川や本通り、川越遺跡、金谷などの東海道にゆかりのある場所で街道文化を発信する拠点を整備し、島田の歴史と文化の景観を伝えることが大切という意見が出た。また、市内にはおび祭りなどの昔からの祭や文化があるため、これらを維持・継続することも大切である。具体的な整備については、観光客を対象にするという点から民間企業の力を取り入れるなどできれば良いと考えた。おび祭りは今は1丁目から7丁目までの住民だけの祭という印象だが、20年後には全市民が参加できると良いと思う。
- ・「小水力発電の推進」の視点では、災害時には避難所の近くに発電できる施設があることが重要であるため、既に伊太谷川を活用して発電している小水力発電を他の箇所でも出来るようにすればよいのではないかと意見が出た。具体的な場所としては、伊太谷川で2箇所、問屋川で1箇所整備できそうな箇所があり、いずれも常時水が流れているため、発電が可能であり、避難所となる小学校も近くにあるため、整備する価値はあると思う。既存の発電所は国が整備したものだが、技術革新が進めば民間企業も参加できると思うため、民間と行政が協力して推進できれば良いと考えた。
- ・「独立型エネルギー・インフラ」の視点では、人口減少に伴う財源の縮小により、行政がエネルギー確保やインフラ整備を行うには限界があると思うため、地域住民自身が、各地域や各住戸において、蓄電設備やコンポスト設備、浄化槽などを設置することができれば、独立したエネルギー、インフラとなるため、災害時でも利用できるようになるのではないかと意見が出た。整備方法としては、行政が設置しやすいような仕組みづくりやサポートを行い、地域がそれらを活用しながら進めていければよいと思う。
- ・「緑の景観の維持」の視点では、大井川神社などの古くから伝わる神社の緑、大きな屋敷の緑など、市民に身近な緑が今でも多く残っているため、これらの緑を保全してはどうかという意見が出た。保全するためには行政と地元が協力しながら、守りたい緑を登録制にして管理するなどして、互いにサポートしながら進めることが大切だと思う。
- ・「公園」の視点では、子育て世代だけではなく、働く人も気軽に利用できる公園があれば良いという意見が出た。場所としては、島田駅から市役所までの間の駅前通り沿いで地元企業の力を活用しながら、公園整備ができれば良いと考えた。

グループ発表